

## シンポジスト

新潟市民病院  
医師 野本優二先生

南魚沼市民病院  
医師 大西康史先生

しなのがわ総合法律事務所  
弁護士 高橋直己先生

〈日時〉

2018年5月26日(土曜)  
11時開場/11時45分開会  
16時閉会

〈場所〉

新潟日報メディアシップ  
2階 日報ホール

退院支援研究会事務局  
木戸病院地域連携室  
FAX(025) 273-8377

# 退院支援研究会 2018年度年次大会

## ～メインテーマ～ 「退院支援とナラティブ」

## 特別講演



「医療における  
多職種協働と物語能力」

立命館大学総合心理学部  
特別招聘教授

齋藤清二 先生

## 演者の紹介

### 特別講演 齋藤清二先生からのメッセージ

現代の医療において、多職種協働の必要性に異議を唱えるものは少ないと思われるが、現場において常にスムーズな連携が行われるとは限らない。特に医療における医療者—患者および複数の専門職間の良好な関係性構築のために、医療者には「患者の病いの語りや同僚が体験していることからの語りを傾聴し、理解し、解釈すること」ができ、「患者の病いの語りについての医療者の物語や、医療者自身の物語を適切に表現すること」ができ、それを通じて「医療者と患者、医療者同士の適切な関係性（＝癒やしの共同体）に参入すること」ができる能力が必要とされる。このような能力をリタ・シャロンは「narrative competence= 物語能力」と呼んでいる。

本講演では、このような医療者にとっての基本的な物語能力を育てる教育法についても紹介したい。

### シンポジスト 野本優二先生からのメッセージ「頭のねじが飛んだ退院支援」

今死のうとしている患者の家族に、「この人は家で死ぬはずだったんだ」と絞り出すような声で言われたとき、私の選択は、何としてでも生きている状態で患者を自宅に届けることだった。それは、頭のねじが飛び、自分自身のナラティブコンピタンスを感じた瞬間だった。

### シンポジスト 大西康史先生からのメッセージ「誰もが自宅へ帰られる地域を目指して」～地域医療医の立場から～

私の医師としての区分は家庭医でありリハビリテーション医ですが、より正確に自分を表現すると、地域医療医だと思います。自宅退院は、その人らしい生活と、人生を取り戻す最初のステップです。

### シンポジスト 高橋直己先生

新潟県弁護士会所属。退院支援に際し、成年後見制度や契約行為など医療・介護・福祉職と法律の専門家である弁護士さんたちが協働する場面は、今後ますます増えることでしょう。法律とナラティブについて現場からのご意見をいただく予定です。

## 退院支援研究会・2018年度年次大会式次第

[日時] 2018年5月26日(土曜)

[会場] 新潟日報メディアシップ 2階 日報ホール

[内容]

午前11時 開場 受付開始

総合司会 小山 弓子

11時45分～12時00分 開会の挨拶と活動報告 本間 毅

12時10分～13時20分 特別講演 担当 三村 健

「医療における多職種協働と物語能力」

立命館大学総合心理学部 特別招聘教授

齋藤清二 先生

13時30分～14時35分 シンポジウム 担当 本間 毅

14時45分～15時45分 シンポジストと齋藤清二先生、参加者の対話

15時45分～16時 閉会の挨拶 若槻 宏子

16時05分～17時30分 懇親会 日報ホール隣り「四川飯店」

[入場料] 1,000円 (当日受付で頂戴いたします)

正会員 (継続と当日入会ともに有効)と学生証を提示された方は無料

[研究会年会費] 正会員 3,000円 賛助会員 一口5,000円

[懇親会費] フリードリンク 4,000円

[備考] 当日、受付脇で遠見書房により齋藤清二先生関連の書籍販売を行います。

FAX 送付先

新潟医療生活協同組合 木戸病院地域連携室

(025)273-8377 送付文の添付は不要です。

締切 2018年4月27日(金曜日) 正午

参加される方の所属機関	
連絡先電話番号・担当者名	
事務局への連絡・希望	

参加者 (入会の希望と懇親会参加・欠席に○を付けてください)

職種	氏名	入会希望	懇親会
		有・無・継続	参加・欠席
		有・無・継続	参加・欠席
		有・無・継続	参加・欠席
		有・無・継続	参加・欠席
		有・無・継続	参加・欠席